

ただいま
父さん

それから
聡二郎も…

高校卒業と同時に
家を飛び出した兄が
突然帰って来た

—…と思ったら

翌日には
置手紙ひとつで
居なくなった

絵に描いたような
金髪碧眼の
「ガイジン」の
息子を置いて

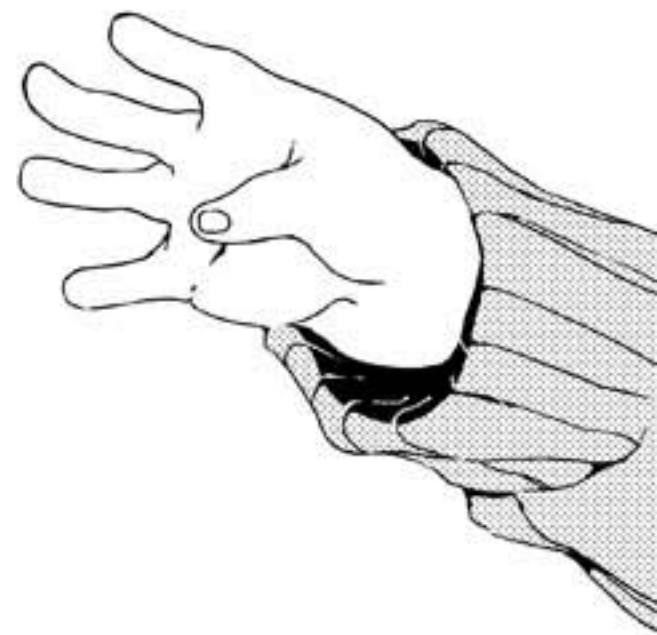
置いてかれた
つてのに
無表情なガキ…

キラ…

えーつと…

みかん…
食う？

…





お前の髪のが
断然きれいじゃん



おそろいじゃ
ねーよ



お前
名前は？

いんすけい

……ま……
ま……ひろ……

可愛い
名前じゃん

似合ってる



今日から
まひろの家族だ



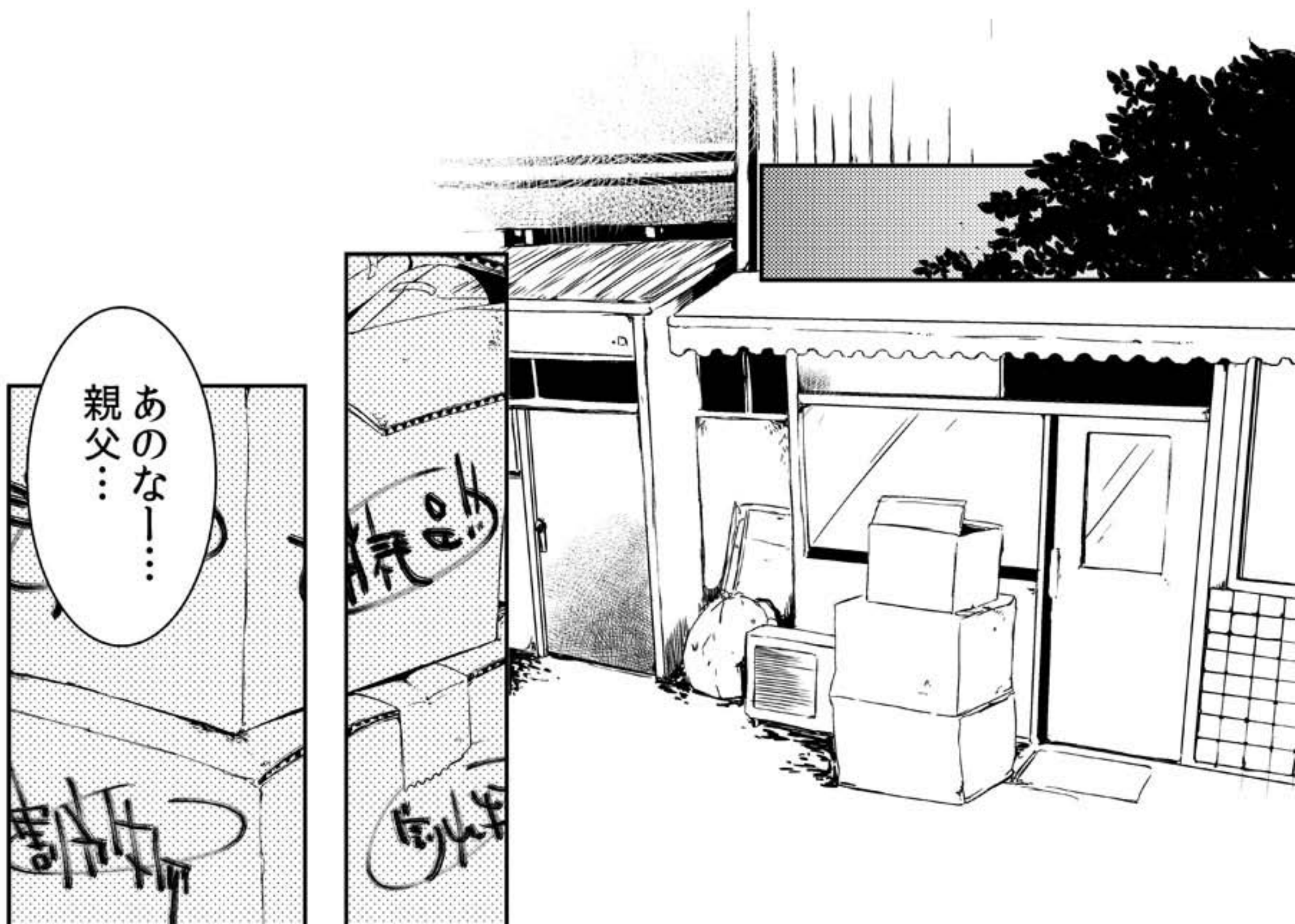
おじ……さん

そつ
よろしくな



俺はお前の
父さんの弟で
聡二郎

つまりお前の
叔父さんな





なにより客も
アンティークなら
気にしねえって

ええー…

僕まで
アンティーク
扱いかい？

でもさー…

聡二郎君
本当にこんな
お店でいいのかい？

こんな店とは
なによっ!!

あつ
いやっ!!

だってほら

聡二郎君
都会でカリスマ美容師
…みたいなの
だったんでしよう

それが…
椅子すら
揃ってないさあ…

ばーかねえっ!!!

この
バーバーチェアは
揃ってないんじや
ないの!

SPECIAL

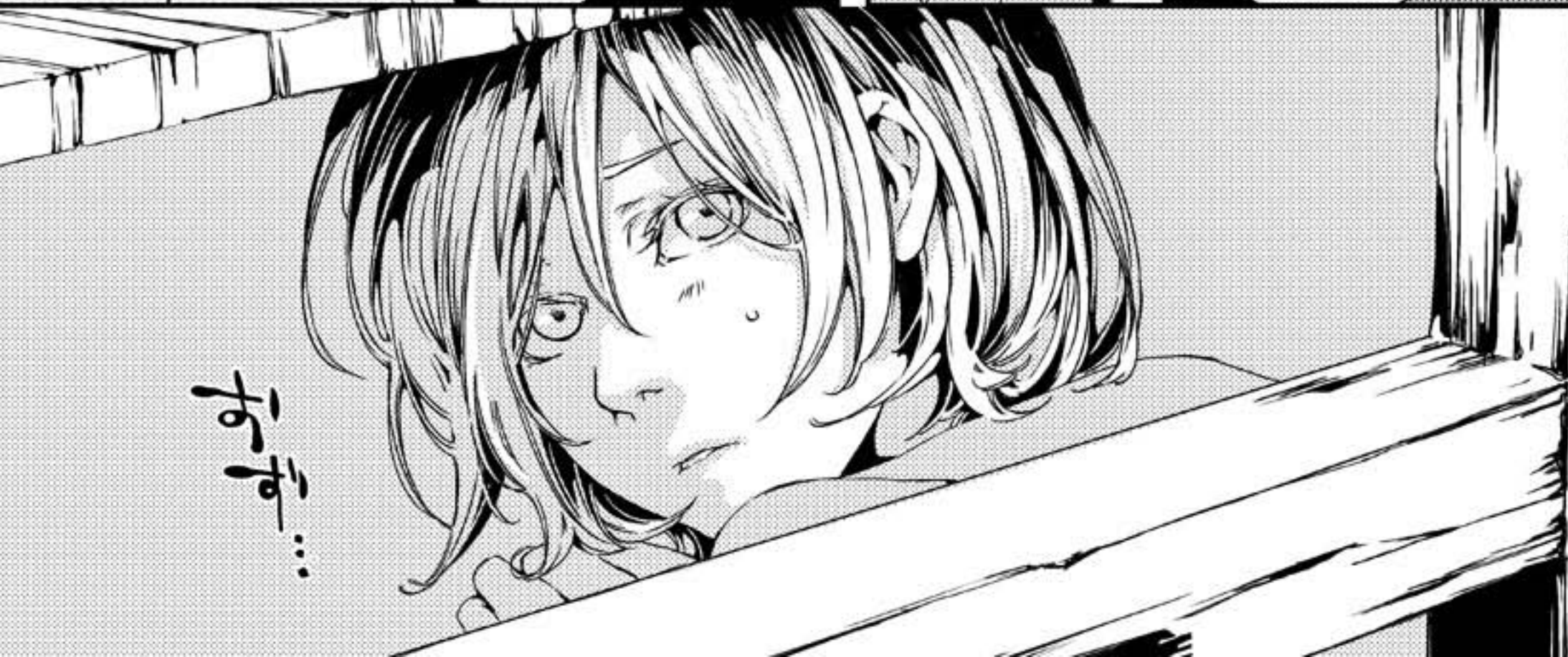
大切な人しか
座らせない

特別なチェア
なのようっ!

えー…









髪：随分
伸びちやったな



ただいま
まひろ



だって…っ!!

叔父さんにしか
切って欲しく
ないから…っ



つかこれ
自分で切ったろ?



ああ

…もうずっと
こっちに居るの?



そっか…

じゃあ
これからは
いつでも
切ってやれるな





